

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立小新中学校（新潟県）【指定校】

【取組内容】 防災学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（1年生前期）

I はじめに

1 学年総合的な学習の時間では前期、地域防災について探究しました。夏休み前までに、地域在住の防災士さんから災害対策に関する講義（計6時間）をしていただいたり、iPad (ICT)を活用して、自宅・学校周辺、通学路における危険個所を見つけたり、実際に避難訓練に参加したりしてきました。夏休みには、それまでに教えてもらったことに、自分なりに探究したことを加えて、家族の前で発表（アウトプット）をしてもらいました。

探究：小新レスキューでは、生徒たちが災害・防災を自分事として捉えて、主体的に取り組む姿がみられました。昨今、国内では地震・台風・火山噴火等の自然災害が頻発しています。8月には、村上市や胎内市を中心に豪雨災害も発生しました。被災する可能性は誰にでもある。自分や大切な家族の命を守るために、小新の地理的特徴や避難方法を知り家族に伝える必要がある。そのことを子どもたちは理解しているようでした。

多くの生徒が、家族の前での発表を終えています（まだの生徒は、これから…）。また、すでに67名の保護者から、事後アンケートにも答えていただきました。結果から、生徒たちの頑張りがや工夫を読み取ることができました。ほんの一部ですが、紹介します。

II アンケート結果から

1 個別最適な学びの充実

住んでいる地域や家族構成、興味・関心は1人1人、異なります。探究では、テーマや表現方法を自ら選択し、個別最適な学びが行われるように工夫してもらいました。

(1) テーマの選択：教科横断的な学び

小新中学校では、総合的な学習の時間を核として、教科横断的な学習にも取り組んでいます。日ごろ、教科書に沿った授業が進められていますが、そこで培われた教科の見方・考え方はたらかせて、発展的な探究を行ってもらいました。社会科と関連付ける生徒が多く、国際比較や歴史という見方で、調べています。次いで理科が多く、地震や津波のしくみを科学的な考え方に基いて解説しています。家庭科を選択した生徒は、健康に配慮し、避難所でも実践可能な食事づくりを写真入りでまとめてくれました。

グラフ1 「災害・防災と関連付けた教科」【人】



表1 「災害や防災と関連づけた教科横断的な探究テーマ」

国語	災害に関連した「俳句」「小説」「ドラマ」
社会	海外の災害 災害の歴史 災害別の死者数を国際比較 過去に日本以外で発生した大地震 新潟県内の災害史 日本とアメリカの防災教育
数学	災害対策に関連した統計・グラフ 実際の備えに関する統計 月別地震発生回数 津波が来る確率
理科	地震や津波が起こるしくみ 地震の前兆
英語	外国人への対応 災害に関連する英語 災害時の外国人との会話 避難所で役立つ英語会話 防災にかかわる英単語
音楽	災害を扱った映画（音楽）
美術	災害と絵画 災害をテーマとした芸術作品
保健体育	応急処置の方法 災害時に発生する感染症
技術	進化する家（耐震構造・免震構造） 防災に役立つ日本と世界の技術 災害を扱ったコンピュータ・ゲーム（プログラム）
家庭	災害時のための簡単レシピ 避難所で食事から健康管理 災害時の調理法 保存の効く防災食
道徳	避難を邪魔する人間心理 災害に関する伝承・言い伝え

1年生の前期の総合では、防災について探究をしている。夏休みには、災害や防災と関連付けた教科横断的なテーマを、それぞれが決めて探究を行った。その結果は、家族の前で発表した。

2 協働的な学びの充実

(1) 夏休みは、家族との協働的な学び

普段、生徒たちは同級生と協働的に学んでいます。7月には、地域の防災士さんにも加わっていただきました。そして、夏休みは家族との協働的な学びでした。兄弟姉妹、祖父母から発表を聞いてもらい、助言してもらう生徒もいました。

グラフ2 「子どもたちの発表を聞いてくれた家族」【人】



リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立小新中学校（新潟県）【指定校】

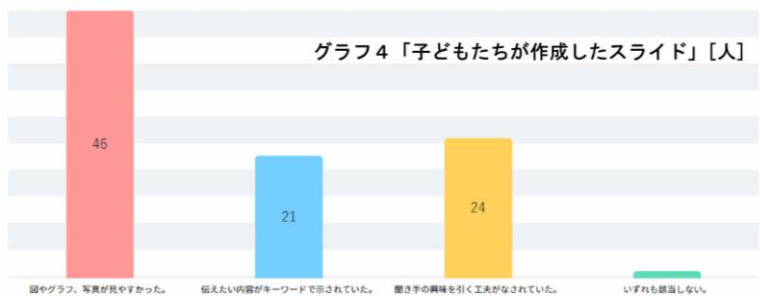
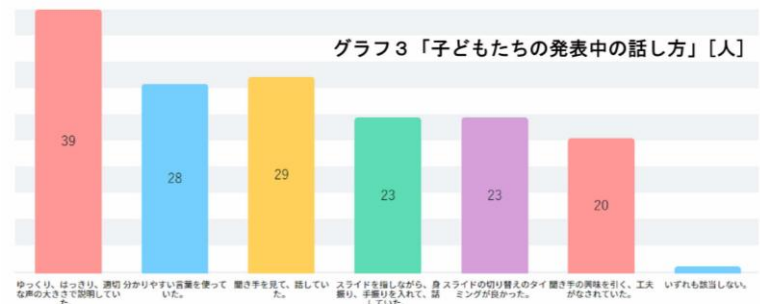
【取組内容】 防災学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（1年生前期）

- 1年生の前期で、防災に関する講演会や、避難訓練などを行い、基礎的な知識を学んだ。

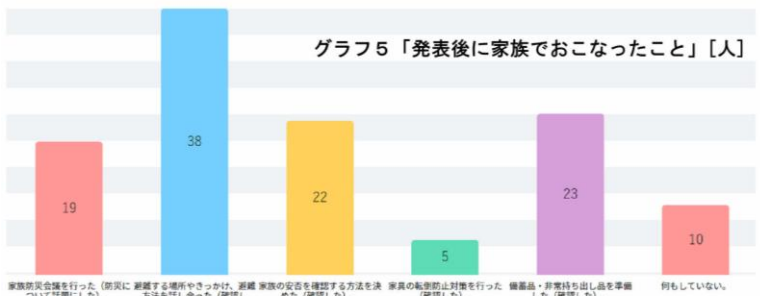
- 夏休みは、自分の興味や関心に応じて、課題設定を行い、自分の好きな時間に、好きな方法で探究し、レポートを作成した。

- 多くの生徒が家族から助言を得て、完成させた。

(2) 子どもたちの発表（アウトプット）は概ね良い評価
「ゆっくり、はっきり、適切な声の大きさで説明できている」「図やグラフ、写真が見やすかった」と、家族から肯定的に評価される生徒が多かったです。



(3) 家族の声掛けで探究の「価値」や「やりがい」を再認識
発表後に、災害対策を実際に話し合う家庭が多くみられました。自分の発表がきっかけとなり、家族で避難方法が確認され、非常持ち出し品が準備されると、子どもたちは「家族に貢献できた!」という喜びや意味、感じられると思います。



保護者の感想「子どもたちの発表の仕方感じた良い点や工夫」（抜粋）

■住んでいる場所の浸水の程度を、具体的な数字で教えてくれました。聞き手に具体的に話しかけるように説明してくれました。せっかくなので、いろんなアプリを使って作成して欲しかったと思いました。次に期待しています。津波がきてから結構、時間に余裕があると感じましたが、東日本大震災のような恐怖も常に忘れずにしていきたいです。お疲れ様でした。■地震の発生原因や地震発生場所、地震後の細菌感染まで示されていたことは良かったと思います。また、地震発生場所が地図で示されていたことで、大震災が、特定地域に集中していないことがよく分かる資料になっていました。大震災の記憶が薄れることにより、防災意識が低下していましたが、今回の発表で、防災対策や意識の重要性を再認識することができました。■図、写真を多く使うことで、わかりやすい資料となっていた。防災に関する探究は、料理に関する内容であり、母親も興味を持って聞いていた。家族会議により、避難場所や避難ルートを家族で確認することができた。災害時の料理については、避難所生活においても、幸せを感じられるように考えた、良い視点からの探究であった。■実際の災害状況や対策状況を、写真を配置する事で深刻度を認識しやすいように工夫していた。また、身近な場所の災害を想定する資料となっていて、興味を引く内容だった。居住地域の特性を理解し、起こりやすい災害に重点を置いている。今後も本質を理解したプレゼンテーションを行えるように頑張ってください。■写真や図を入れて、見やすく、興味を引くようにしていた。質問したことにも、自分の言葉で一息懸命、伝えようとしていた。時間をかけて作成していた。たくさんの情報を集め、自分なりに整理して、わかりやすく伝える事ができていたと思います。■例示した写真に、注意を引くマークがされており、スライドが見やすかったです。何か災害が起きた時に、防災について大事だと実感するが、子どもの発表を聞き、普段から意識することが大事だと認識しました。家族で、防災グッズの見直しをしようと思います。■改めて防災を身近に感じる発表でした。自宅周辺の浸水箇所や、雪の多い新潟だからこそ考えられる災害に備えておいた方がよいもの、コロナ禍の今、避難所でも必要になる物など、きちんと調べていた所が素晴らしかったです。■聞いている人の反応を見ながら、ゆっくり発表できました。内容がよく整理されているので、聞きながら、自分の問題として考えることができました。これから気をつけなければいけないことが、はっきりしました。わかりやすい発表でした。

III 終わりに

夏休み中、家族の皆様から助言をしていただき、ありがとうございました。後期は小新ウェルフェア「未来に備えて、家族に伝えたい福祉情報」と題して地域福祉について探究します。探究した成果は家族の前で発表してもらいます。冬休みも、ご期待ください。